

(中学校)

技術・家庭

I 研究主題

よりよい生活を創造し、社会を支える資質・能力の育成
—「見方・考え方」を働かせた学習活動を通して—

II 研究のねらい

よりよい生活を創造し、社会を支える資質・能力を育てるために、

- 1 基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けさせる。
- 2 自ら問題を見いだして課題を設定し、解決するための力を身に付けさせる。
- 3 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けさせる。

III 研究の視点

本研究では、見方・考え方を働かせながら問題解決ができるような「題材を貫く課題」を題材ごとに設定し、見方・考え方を働かせた問題解決的な学習を繰り返し行うことができるようにする。

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、定着を図るとともに、見方・考え方に気付かせる

段階を「生徒を育てる段階」とする。また、生徒自ら問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、見方・考え方を働かせて課題を解決する力を養う場面を「生徒が育つ段階」とする。さらに、今後の生活や社会において見方・考え方を働かせることができるようにすることを目指す段階を「生徒が伸びる段階」とする。この段階では、生活する上で直面する様々な問題に対して、解決方法を考えたり、自分なりの発想で方法を改良したりして、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育む。この学習サイクルを指導計画に位置付け、各題材で3学年間通して繰り返し行うことで、生徒の成長につなげる。

加えて、学習の成果を適切に評価し、授業の改善や指導の工夫に活用することで、よりよい生活を創造し、社会を支える資質・能力の育成を目指す。

1 指導計画について

効率的に内容、題材を配置するとともに、見方・考え方を働かせた問題解決的な学習を、3学年間を見通して繰り返し行うことができるよう、指導計画に関して以下のような内容に取り組む。

(1) 「見方・考え方」を働かせながら問題解決ができるような題材を貫く課題の設定

題材ごとに見方・考え方を働かせながら問題解決ができるような「題材を貫く課題」を設定し、課題の解決に向けて生徒の実態に応じた学習活動の工夫・改善を行うことにより、生徒一人一人の資質・能力の育成を図る。

(2) 指導事項関連表の作成

指導の重複や漏れを防ぎ、問題解決的な学習を充実するとともに、見方・考え方に関連する既習事項を明確にし、より見方・考え方を働かせることができるように指導事項関連表を作成する。

(3) 3学年間を見通した指導計画の作成

見方・考え方を働かせた問題解決的な学習が系統的に行えるよう、指導事項関連表を参考に、適切な難易度の題材を検討し、3学年間を見通した指導計画を作成する。



2 「見方・考え方」を働かせた学習活動

問題解決的な学習において、見方・考え方を働かせることができるよう、以下について取り組む。

(1) 「見方・考え方」を働かせる三つの段階の設定

見方・考え方を働かせる「題材を貫く課題」の解決を目指して、三つの段階（「生徒を育てる段階」「生徒が育つ段階」「生徒が伸びる段階」）を設定し、段階的に見方・考え方を働かせることができるようにする。

(2) 「見方・考え方」の意識化

学習活動において、見方・考え方を働かせることができるよう、見方・考え方を意識化させる工夫を図る。

(3) 思考を可視化する工夫

思考を可視化し、見方・考え方を働かせやすくするために、思考ツールの活用やワークシートの工夫を行う。

3 身に付けた資質・能力を見取る工夫

見取りが難しい思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度の観点について、生徒が自己の成長を自覚できるようにするとともに、教師が指導の改善に生かすことができるよう、以下のような評価の工夫を行う。

(1) 生徒の変容を見取る評価方法の工夫

グループ活動の中で育成された生徒一人一人の資質・能力を見取るために、ワークシートや学習の振り返りシート（OPPシート）等を活用して評価方法の工夫を行う。

(2) 題材を通して育んできた資質・能力を評価する工夫

学習場面ごとの評価に加えて、題材を通して育んできた資質・能力を見取ることができるよう、各題材で題材を貫く課題に対応させたパフォーマンス課題を設定し、見方・考え方を働かせながら習得した知識や技能を使いこなして課題を解決させる。その際の評価規準やルーブリックについても検討し、「生徒が伸びる段階」で身に付けた資質・能力を適切に評価できるようにする。

4 ICT 端末等の効果的な活用

主体的・対話的で深い学びを実現するために、生徒の思考の過程や結果を可視化したり、大勢の考えを瞬時に共有化したり、情報を収集し編集することを繰り返し行い試行錯誤したりするなどの学習場面において積極的に活用する。

(1) 一連の学習過程の中での効果的な ICT 活用の工夫

生活や社会の中から問題を見いだして課題を解決する活動の中で、課題の設定や解決策の具体化のために ICT を活用して情報を収集・整理したり、実践の結果を分かりやすく編集し、発表したりするなど工夫を行う。

(2) 評価における ICT 活用の工夫

学習支援ソフト（「EILS」「ロイロノート・スクール」等）を活用することで、生徒が自らの学習成果を蓄積して評価・改善につなげられるようにする。また、生徒の保存した資料や写真、動画等をもとに評価を行ったり、授業改善に生かしたりするなど、ICT を評価に活用する工夫を行う。

IV 留意事項

- 生徒の実態を把握するためにアンケート調査を県下全域で行う。
- 学習環境の整備・充実に努め、学習効果を高めるとともに、安全や衛生に関する指導の徹底を図る。